

13 ペアワーク、グループ学習が苦手なMさん

Mさんは、教師の話をよく聞き、質問にも答えて授業に意欲的に取り組んでいるのですが、ペアワークになると、下を向いて活動できないことが多く見られます。また、グループ学習でも、その場を離れてしまったり、グループの中で友達と話し合ったりすることができず、本人もペアワークやグループ学習に苦手意識をもっているようです。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎ペアワーク、グループ学習の活動内容や役割がわからないため
- ◎状況に応じた伝え方やかかわり方がわからないため
- ◎友人関係で失敗経験があり、人とのかかわりやグループでの活動を避けているため

合理的配慮・具体的な支援(例)

- 1 見通しがもてるように活動内容を視覚的に示し、役割を具体的に決める 〈①－2－1〉

○初めにペアワーク、グループ学習の目的、役割、進め方を黒板や手順表に書いて示し、説明する。

<グループワークの進め方>(例)

- 1 役割分担を決める
【係】司会、記録、発表、
タイムキーパー
- 2 テーマについて各自考える
「～する方法を考えよう」(5分)
- 3 グループ内で一人ずつ発表する
(10分)
- 4 グループの考えをまとめて書く
(10分)
- 5 全体で発表する

ワークに入る前にMさんの役割分担、活動手順などを個別に確認するようにします。



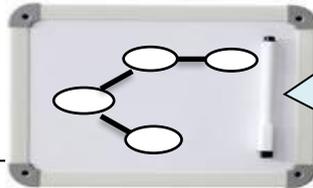
自分の役割を理解し、手順表を見ながら参加することができるようになりました。

2 状況に応じた多様な伝え方やかわり方を確認する <①-2-1>

- 状況に応じた話し方や伝え方の具体例を視覚的に示す。
- 考えがまとまらないときは、途中まで考えたことを伝えたり、言葉で伝えられない時は、絵や図で伝えたりすることも認める。

<こんなときは、こうしよう!>

- 1 自分の考えが浮かばないとき
■友達の意見に付け足す
「〇さんの意見に賛成です。理由は……。」
- 2 考えがまとまらないとき
■途中までの考えを伝える
「途中までですが、……と考えました。」
- 3 言葉で伝えられないとき
■絵や図で示す
(ホワイトボード活用)



本人に伝えるとともに、学級全体でも確認することで、状況に応じた多様な伝え方を受け入れる雰囲気をつくるようにします。

言葉で伝えられないときは、ホワイトボードの*ウェビングマップを示して、思考の過程を伝えることができました。
*カテゴリーごとに関連付けしていく方法

3 安心して参加できる方法やスモールステップの目標を相談する機会を設ける

<①-2-3>

- できるだけ安心して活動に参加できるよう、事前に本人と相談しながら役割分担やスモールステップの目標を決めたり、活動を予告したりする。
- 本人が共に活動できる友達やグループ編成に配慮する。

【活動】意見を言うことが難しくても、友達の話を聞くことならできるか？

【役割】司会や発表者の役割が難しくても、記録やタイムキーパーならできるか？

【配慮事項】事前にテーマやグループを予告しておけば大丈夫か？

ペアが決まらない、ペアの相手が気づかいない生徒の場合は、隣の子とペアを組むようにしたり、活動できているか目配りしたりするなどの配慮をします。

不安が強く、どうしても活動に参加することができないときは、別室で過ごしたり、別の課題を行ったりすることも考えます。



Mさんが話しやすい友達に配慮したペアやグループ編成にし、できる役割を事前に相談することで、活動に参加できるようになってきました。

14 テストを受けるときにパニックになるNさん

Nさんは、これまでテストを受けるときに、左右をキョロキョロと見回したり、両隣の生徒の答案をじっと見つめたりする様子が時折見られました。その都度、テスト監督の教師が視線や合図を送るなど、注意を促していました。しかし、ある教科の定期テストの際に突然声を出し、シャープペンシルで自分の腕を傷つけ始めました。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎先の見通しがもてなくなったり、自信を喪失したりすると、大きな不安を感じパニック症状が現れるため
- ◎解答がわからず、「テストの結果が悪かったら、この先どのようなことになるのか」と不安を感じるため
- ◎自傷行為によって自分の気持ちを静めようとするため

1 テストを受けるときの座席の配慮や別室での受験 <①-2-3>

- 定期テストの際には、落ち着いて受験できる座席や、別室で受験することなどを事前に決めておく。
- 受験でパニックを起こした際は、別室でクールダウンできるようにし、放課後の再受験を認める。

合理的配慮・具体的な支援(例)



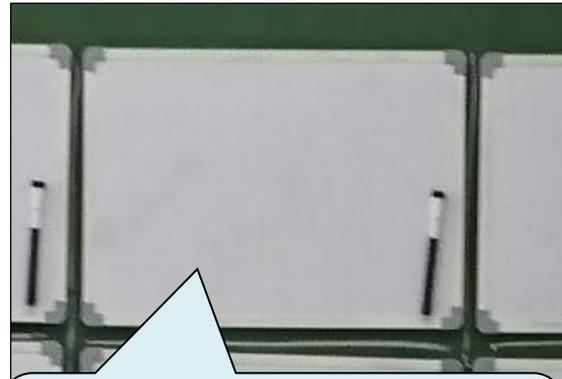
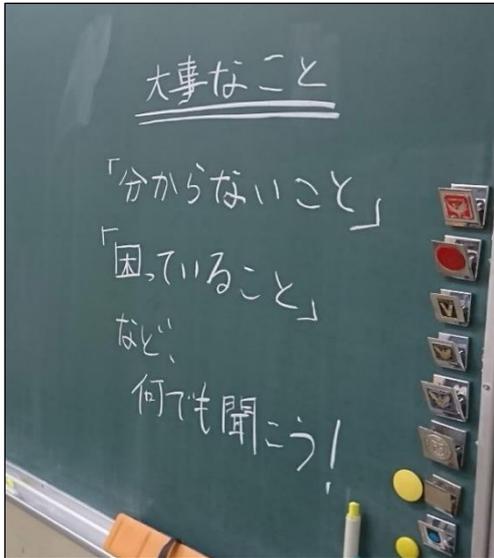
Nさんにとっては、刺激の少ない最前列の座席が、周囲の生徒の様子が気にならず、試験監督の教師にも近いことから、安心感を得られました。



このタイマーだと、残り時間が色ではっきりわかるので、終了時刻までの見通しがもてるようになりました。

2 本人と教師とで共有できるコミュニケーション手段の確保 <①-2-1>

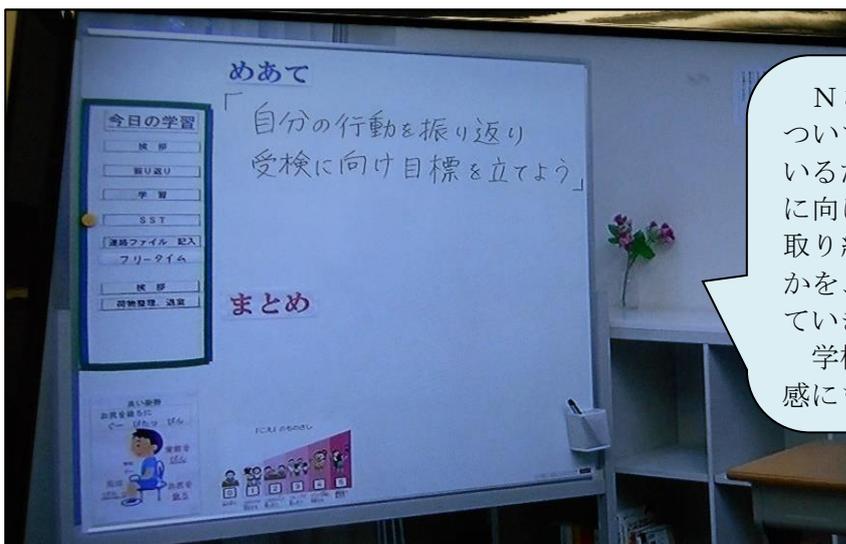
- 日頃の授業から、Nさんが強い不安を感じたときには、教師に質問したり、伝えたりすることを約束しておく。



Nさんは周囲の生徒の反応も気になるようなので、ミニホワイトボードを使って、文字で質問したり、伝えたりすることにしました。

3 教育相談の機会を活用し、自分の抱えている課題を整理する <①-1-1>

- Nさんの教育相談の機会を定期的に設け、学校生活や学習における具体的な課題を、一緒に整理していく。
- パニックに陥ったときの自傷行為を「ハンカチやタオルを握る」等、他の行為に転換できるようにしていく。



Nさんは自分の進路について強い不安を感じているため、目標（ゴール）に向けて、日頃から何に取り組んでいけば良いのかを、一つずつ明確にしていきました。

学校生活に対する安心感にもつながりました。

15 学習のルールが定着しないOさん

Oさんは、明るく朗らかな性格ですが、周囲の状況を考慮せず、疑問に思ったことを即座に尋ねたり、必要以上に大きな声で話したりしています。また授業中にトイレに行ったり、私語もあったり、落ち着かない様子も見られ注意を受けることがあります。教師の指示を正確に理解できず、トラブルになることもあります。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎教師の指示の内容や意図が理解できないため
- ◎暗黙のルールや場の空気がわかりにくい
- ◎ルールを覚えておくことが難しい

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 理解しやすい指示と、声のかけやすい座席配置 <①-2-1>

- 曖昧な指示を出さず、具体的な指示をして理解を促し、何をすれば良いのかをわかりやすく伝える。言葉だけの説明ではなく、図や絵、写真など視覚的に示す。
- 座席はできるだけ前方中央よりの座席で、声をかけやすい位置にする。周りの様子を見て模倣ができるようであれば、モデルとなる生徒の近くにする。

「この前のプリントを出しましょう。」ではなく「NO. 1のプリントを出しましょう。」と具体的に示し、実物を提示したり、指示を板書したりするとわかりやすいです。



Oさんの様子を確認してから、全体に指示を出したことで、みんなと一緒にできることが増えました。

2 学級や学校のルールを明確にし、視覚的に示す <①-2-1>

- 学年や教師が変わっても、ルールが変わらないように共通理解を図る。
- ルールの内容を理解しやすいように、具体的に良い行動を視覚的に示す。
- いつでも確認できるようルールを掲示する。

学習中の約束(例)

- 授業が始まる前に学習用具の準備しておく。
- 学習中は、先生の話に黙って最後まで聞く。
- 質問があるときは、先生の話が終わってから挙手する。
- 声の大きさは、話す人との距離や場所によって変える。
- 黒板に書かれていることは、ノートに書き写す。
- 授業中は、勝手に立ち歩いたり、学習に関係のないおしゃべりをしない。

守ってほしい約束を具体的に示すことで、どのように行動したら良いかを明確にします。



約束を確認したことで自分で行動を直せるようになってきました。

3 学級全体でルールの定着に取り組む <②-2>

- Oさんにだけ声かけするのではなく、学級全体に行き、Oさんに注目が集まらないように配慮し全体でのルールを徹底する。
- 注意を受けるような行動をとったときは理由を聞き、適切な行動がとれるように具体的に知らせる。



行動の理由を聞くときは、落ち着いて話ができる環境を整え、個別の対応をします。その後、できたら認めることを繰り返し定着を図ります。

個別に話をすることで、どのような支援の方法が良いかを一緒に考えることができました。

16 面接がうまくできないPさん

Pさんは、面接指導中、身体をゆするなど落ち着きのない様子が見られます。また、面接官役の教師が想定外の質問をすると「その質問は聞かれるとは言われていない!」と返答を拒否し、パニックになり、続けることが難しい状況です。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの? (考えられること)

- ◎何を話せばいいのかわからない、または何も話すことがないと思っているため
- ◎面接に慣れておらず、見通しがもてず不安が大きいため
- ◎失敗してはだめだという気持ちが強く、自分にプレッシャーをかけてしまうため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 自分のことを知る(自己理解) <①-1-1>

- 自分の良いところやアピールポイントを知り、自信をもって面接に臨めるようにする。

自己肯定感が低く、自分の良いところを見つけることが難しい生徒には、チェックリストを使用し、自分に良い面があることや、学校生活で頑張っていることに気づく機会とします。

あなたのよいところチェックシート

- ◎自分のよいところに✓をつけてみましょう
- 欠席や遅刻がほとんどない
- 体が健康で丈夫
- まじめな性格だ
- 人にやさしくできる
- 明るい性格だ
- 親切だと言われる
- 手先が器用だ
- 一生懸命に取り組んでいることがある
- 人の役に立ちたいと思っている
- 周りの人と協力できる
- がまん強い
- その他 ()

自分の事を考えてみよう!

私たちは、自分のことを、どのくらい知っているでしょうか?自分の良いところや、苦手なこと、直した方がよいと思っていることを、いくつか書き出してみましょう。

自分のよいところ(得意なこと)は?

①

②

自分の、ちょっとだめなところ(苦手なこと)は?

①

②

好きなこと、頑張っていることは?

①

②

嫌いなこと(されて嫌なこと)は?

①

②

2 面接のやり方を視覚化する <①-2-1>

- どのようなことに気をつけるべきか、面接の形態はどうか、どんな質問が考えられるかなど、想定できることを確認しておく。
- マナーやポイントを視覚的に提示し、いつでも確認できるようにしておく。

<面接のマナー> (例)

- 椅子には深く腰掛け、背筋を伸ばす
- 視線は面接官に向ける
- 男子は手を軽く握って太ももの上に乗せる
- 女子は足をそろえて座る
- 「大きな声で」「ゆっくりと」「です。ます。をつけて」話す
- 「失礼します」「お願いします」「ありがとうございました」の挨拶を忘れずに

<考えられる質問項目> (例)

- 自分のよいところ
- 得意なこと、苦手なこと
- 学校生活で楽しかったこと
- 学校生活で頑張ったこと
- これから頑張りたいこと
- 尊敬している人

<身だしなみチェック表> (例)

- 髪の毛は整っているか
- 顔を洗ったか
- 歯磨きをしたか
- 制服のボタンはきちんと留まっているか
- ネクタイはゆるんでいないか
- つめは短く切られているか

あらかじめ質問事項を想定し、答えを考えて練習をしておくことで、安心して面接に臨めます。

できたことに✓をすることで、自信をもって面接に臨めるようになりました。



3 ロールプレイングを繰り返し行い、慣れる <①-2-2>

- 面接をしている様子を教師が実際に行って見せたり、VTR教材を作成して見せたりし、見通しがもてるようにする。
- 面接場面を想定し、疑似体験することで、実際の場面での振る舞い方を学べるようにする。
- リラックスした場面で、質問に答えるやりとりを繰り返すことで経験を積み、慣れるようにする。

練習場面を録画し、振り返りに活用すると良いでしょう。自分の姿を客観的に見ることができ、その後の自主的な改善につながります。



慣れるまではシナリオどおりに行うのが良いです。いろいろな質問事項や答えを用意し、応用したり、臨機応変に対応したりできるようにしていきます。

面接の様子がわかり、見通しがもてたことで、不安の軽減につながりました。